

## 平成30年度 施設見学会の報告

- 1 日 時 : 平成30年9月5日(水) 午前9時～午後5時00分
- 2 参加人数 : 28名
- 3 見学先 : 国立研究開発法人 理化学研究所 放射光科学総合研究センター
- 4 見学行程 : JR新大阪駅(集合) ⇒ 昼食 ⇒ 放射光科学総合研究センター ⇒ JR大阪駅(解散) ⇒ 懇親会
- 5 見学内容

前日からの台風21号の影響で開催が危ぶまれる中、計量器工業部会と計量器販売部会が企画・運営した当協会主催の施設見学会を開催しました。

放射光科学総合研究センターには、SACLAとSPring-8という実験施設があり、そのSACLA内のホールで施設設置の経緯や施設の概要に関する説明を受けた後、特別にメンテナンスの期間のため、通常は入ることができない区域に入り、巨大施設の裏側をセンター職員による説明を聞きながら見学しました。

X線自由電子レーザーという新しい仕組みで、化学反応など今まで早すぎて捉えることができなかった原子や分子の一瞬の動きがくっきりとみえる施設のSACLAは、SPring-8の技術をもとに開発され、装置や部品のほとんど全てが、日本のメーカーの高い技術によって作られていました。また、海外の施設の長さを比べると、ドイツが3.4km、アメリカが4kmに対して日本は700mと、ずば抜けてコンパクトでありながら、世界一の性能を誇っているそうです。

世界最大エネルギーである周長1436mの蓄積リングが作り出す強いX線で、今までにみえなかった小さいものを観察する施設のSPring-8は、発生させた放射光を使って実験できる場所(ビームライン)が57ヶ所あり、それぞれのビームラインで多様な研究が進められており、我々の生活に欠かせないものもたくさん生まれているそうです。建物内には自転車用通路があり、我々の見学中にも研究員の方が自転車で通り過ぎることがありました。

担当していただいた職員の方の説明は丁寧であり、参加者の方々もX線について再発見があり、充実した一日となりました。



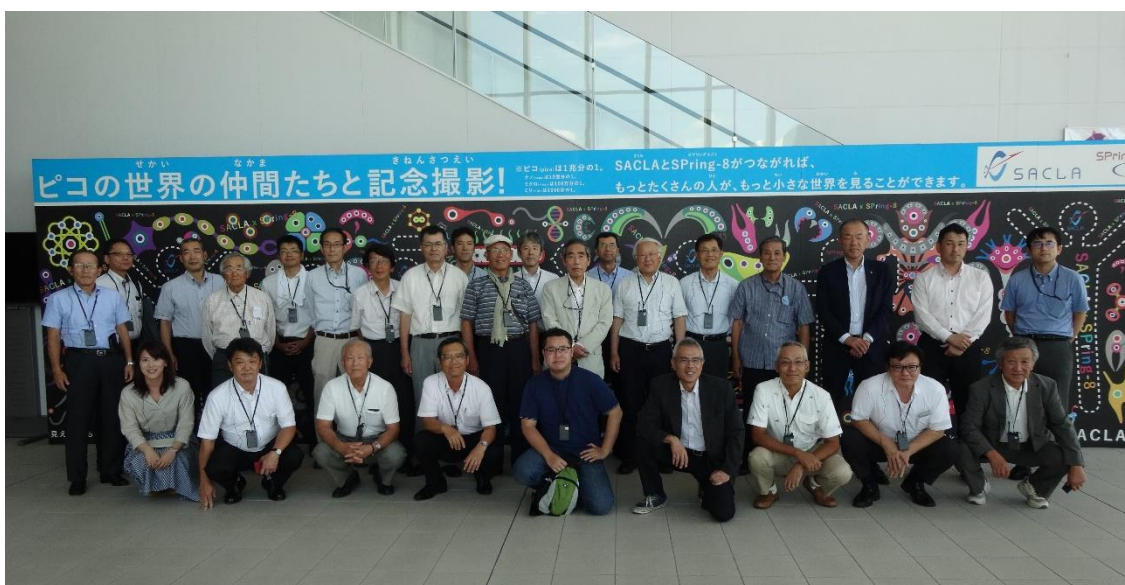
藤田理事長の開催挨拶



放射光科学総合研究センターの施設説明



SACLA の施設内部の見学風景



参加者全員での集合写真

SACLA (直線)



放射光科学総合研究センターの全景

SPring-8 (円形)